山陽スピリット ニュース　No.39

2025(令和7)年11月29日

発行：学校法人　山陽学園　山陽スピリット推進室

私を変えた出会い

―三人の上代先生―

山陽学園大学・山陽学園短期大学
IR推進室企画部

小畑　奈緒子（旧姓　岩本）
（山陽学園大学　平成17年卒業）

28年前の春、15歳の私は教室に座っていました。大きな黒板の上には「愛と奉仕」と掲げられています。その中央に、白黒の肖像写真。眼鏡をかけた女性が卒業式に身につけるというキャップ＆ガウン姿で微笑んでいます。それが「上代淑先生」と呼ばれる岡山の教育者だとは、山陽女子高等学校（現：山陽学園高等学校）に入学して初めて知りました。

▲上代淑先生

上代淑という女性は、昭和34（1959）年11月29日に亡くなっているにもかかわらず、なぜこんなにも大切にされているのだろうか。

すぐに思い浮かんだのは、そんな疑問でした。それに家族や友人のことを「愛」と言われるとなんだか大げさな気がするし、誰かに親切にすることも「奉仕」かといわれるとなんだかしっくりこない。「愛と奉仕」という言葉は馴染みがなく、なんとも気恥ずかしく映りました。

それでも上代淑の教えである日めくりの言葉はわかりやすく、すぐにでも実践できる内容ばかりでした。例えば、『車掌さんにも　運転手さんにも「ありがとう」』は、小さい頃にはやっていたけれど、大きくなるにつれてやらなくなってしまったことのひとつでした。

恥ずかしながら、中学生までの私は反抗的な子どもでした。授業中は一番前の席にされても平気で突っ伏して居眠り。宿題はしないなんて当たり前。

両親は「ちっともいうことを聞かない」と嘆き、先生にも「ちゃんとして」と注意ばかりされていました。夜に家を抜け出してビリヤード場に出入りすることもありました。両親は30分以上かかる自転車通学が面倒になり、そのうち高校を辞めてしまうのではないかと思っていたそうです。

高校に入学したその日から、私は心を入れ替えて、日めくりの「日々のおしえ」を少しずつ実践することにしました。

すると、夏の三者面談で先生が開口一番「とても素直な、いいお嬢さんですね」と感心した様子なのです。母は戸惑って曖昧に返事をし、帰り道、「先生、誰か違う子と勘違いしていたね」と耳打ちするほどでした。

授業中にはノートを取り、予習や復習をするようになりました。掲示された成績上位者の中に自分の名前を見つけたとき、上代淑の教えで違う自分に生まれ変わったと思いました。

上代淑ってどんな人だろう。どんな時代を生き、どんなことを成し遂げたのか。私の心に小さな疑問が生まれました。その疑問を無視できなくなった私は、山陽学園大学に進学しました。当時、山陽学園大学には上代淑のお孫様でいらっしゃる上代淑人学園長がおられました。

東京大学名誉教授でもあった上代淑人先生は、偉ぶるところもなく、いつも穏やかで、先生はいつもたくさんの学生に囲まれていました。

▲岡山旭川の花火大会をご一緒に

京都大学大学院で指導にあたられることになり、私は友人と淑人先生を訪ねたことがあります。その時、京大生が運営するカフェに案内されました。

「山陽でもやるといいよ」淑人先生は、そんなことをさらりとおっしゃるのです。「そんなの無理ですよ」と私はすぐに返事をしました。でも、不思議なことに岡山に帰ってすぐに大学祭でカフェをやろうという話が持ち上がり、実現しました。

淑人先生の夢を語るような宿題はほかにもあります。

「山陽で教えられるといいね」「上代淑の卒業したアメリカのマウントホリヨーク大学を訪ねてみるといいよ」

淑人先生はいつも雑談のように口にします。

「えー、そんなの無理ですよ」と私は答えましたが、会社勤めを経て、山陽女子中学校・高等学校の社会科の講師として教壇に立つことになりました。単身、マウントホリヨーク大学にも訪れて、上代淑の資料を見せてもらいました。

▲京都から卒業式にもお越しに

淑人先生は、平成23（2011）年6月29日にお亡くなりになりましたが、淑人先生の生き方そのものが「愛と奉仕」に満ちたものでした。淑人先生は上代淑から直接、山陽学園の精神を受け継がれ、私は淑人先生を通して「愛」とは何か、「奉仕」とは何かを自らに問いながら生きよ、と教わったような気がしています。

講師を退職してから月日が経ち、創立130周年記念事業に携わったことで山陽学園の歴史をより深く知ることになりました。そこで出会ったのは平井の丘に山陽学園短期大学を開学した初代学長の上代晧三先生です。18歳で上代淑の養嗣子となり、淑人先生のお父様にあたる人物です。もちろん直接会って話したわけではありません。上代晧三先生の遺文集『非情への傾斜』を読んで、その心に触れたのです。

▲上代晧三先生

晧三先生が、山陽学園の百年という節目をどんなに心待ちにしていたか。百年を迎えるために10年以上前から着実に準備されていたご様子、百年の歴史を伝えることへの情熱。上代晧三先生が病床から書いたという学報に残した最後の言葉。

百年という歴史は、
決して百年で終わらない

この言葉を残して晧三先生は創立百周年を待たずに、昭和59（1984）年5月22日に旅立たれました。命を懸けて伝えようとした山陽学園の歴史の重み、そして、この言葉が私の心に刻まれました。

山陽学園の歴史を伝えたい。その志に賛同してくださるOB・OGの教職員を中心にオリーブグリーン劇団を結成しました。そして私は、シナリオの原案を執筆するうちに、上代淑の生涯は山陽学園の歴史でもあるということが腑に落ちました。山陽とともに生き、山陽を支えた上代淑。だからこそ長年、尊敬され愛されてきた人物です。

劇団の活動を通して、淑人先生からの宿題には「上代淑の小説を書いたらいい」という言葉があったことも思い出しました。

2年前から、私は山陽学園大学・山陽学園短期大学IR推進室企画部で非常勤職員として働いています。広報室を兼ねるこの部署で、SNSの更新やチラシのデザインをする中、創立140周年記念ロゴを作成する機会を頂戴いたしました。140年という歴史が、決して140年で終わらないように、山陽学園が150年、200年と続くようにと「きざはし」に願いを込めました。

学校法人 山陽学園 Anniversary 140th since 1886
山陽学園は 2026 年に創立 140 周年を迎えます

▲創立 140 周年記念ロゴ

そして、休日は小説を書く勉強をしています。上代淑の短編小説を書いては添削してもらい、来年の創立140周年に向けて山陽学園創立の物語を準備しています。

山陽学園で三人の上代先生と出会い、私は大きく変わりました。それまで無気力だった日々が、のびのびと活動的な人生へと変化しました。

そして、「愛と奉仕」とは何か。そう自分に問い続ける日々のなかで見つけたのは、私が受けとった教えを次の人へとパスする――受け渡すこと。

もっと簡単に表現するなら「奉仕」とは、シェアする行動ではないかと思うようになりました。心の片隅にいつまでも残っていること、ほかの人から喜んでもらえること、自分がついやってしまう楽しいこと。そうしたことを誰かと分かち合い、惜しみなく世の中に活かす。もちろん、その行動には、相手が受け取りやすいように受け渡す配慮と思いやり、そして、感謝の心、つまりは「愛」が必要です。

私にとっての「愛と奉仕」は上代淑を、そして、山陽学園を広く世の中に届けることです。

皆様にとっての「愛と奉仕」は何ですか？

上代淑先生遺訓「日々のおしえ」

（1日）　美しい日は美しい月を　美しい月は美しい年を　美しい年は美しい生涯を
（2日）　清く正しく　あかるく強く　心に愛を育てよう
（3日）　夜の眠りに「明日こそは」　朝のめざめに「今日こそは」
（4日）　さわやかな挨拶　あかるい一日
（5日）　人のために尽くす事こそ　私達のよろこびである
（6日）　重荷を負う人に　手をかしましょう喜んで
（7日）　近所隣へ思いやり　愛の種を蒔きましょう
（8日）　事ごとに感謝し　祈りましょう
（9日）　車掌さんにも　運転手さんにも「ありがとう」
（10日）　老人や体の不自由な人に　すすんで席をゆずりましょう
（11日）　与えた親切忘れても　受けた親切大きく感謝
（12日）　辛抱第一何くそで
（13日）　はたらけ はたらけ　苦労は心の糧になる
（14日）　「から手であるな」首をひねって手を働かせ
（15日）　あたえられた仕事は　五〇センチ向こうまで
（16日）　さっさ　せっせと働こう　手のあれたのはあなたの誇り
（17日）　あなたの最善今すぐに
（18日）　美しい行いは　美しい心から
（19日）　ねたまず　憎まず　たかぶらず
（20日）　逢う人ごとにやさしい思いと　やさしい行いを
（21日）　礼儀正しく清潔に　言葉づかいはていねいに
（22日）　素直な心で明るい返事
（23日）　無駄なおしゃべり禍のもと
（24日）　道や広場を清潔に
（25日）　整頓は人目につかぬところまで
（26日）　物の命を大切に
（27日）　いらぬガス消せ電気消せ　水一滴もむだにすな
（28日）　使ったものは元の場へ　借りた品物すぐ返せ
（29日）　「アイロン・スイッチ」「アイロン・スイッチ」これ忘れたら大火事だ
（30日）　いつでも後をふりかえれ　しのこしないか　戸締まりよいか
（31日）　広い大空のように　ゆたかな心を

（山陽スピリット推進室）